

産業標準案作成対象テーマの審議について

日本産業規格（JIS）の制定、改正又は廃止のための産業標準案（以下、JIS 案という。）の作成に着手するに当たっては、当会認定産業標準作成機関 JIS 案作成規程に基づき、当該 JIS 案作成対象テーマが適切であることについて、主務大臣による事前調査、及び JSA 事務局による“JIS 案の作成開始要件”を満たすことの事前確認を経て、産業標準作成委員会にお諮りすることとなっております。

つきましては、次ページ以降の JIS 案作成対象テーマについて、理由（必要性）及び期待効果、JIS 案の作成開始要件への適合状況、作成開始予定などを記載しておりますので、JIS 案の作成に着手してよろしいかご審議をお願いいたします。また、産業標準作成委員会の下に JIS 素案の調査審議及び作成を行うための WG を設置することについても併せてご審議をお願いいたします。

なお、字句等編集上の修正については、産業標準作成委員会事務局に一任いただきますようお願いいたします。また、ご承認いただいた JIS 案作成対象テーマは、利害関係者に公表するために JIS 作成予定一覧表として JSA ウェブサイト掲載いたします。

※選定基準 3（産業標準化の利点・欠点）各コードの内容につきましては、
下記リンク先の 5～6 ページにてご確認いただけます。

「産業標準案等審議・審査ガイドライン」

URL <https://www.jisc.go.jp/jis-act/pdf/shingishinsa-guideline.pdf>

産業標準案作成対象テーマ一覧(改正)

認定機関	産業標準作成委員会	制定/改正/廃止	規格番号	JIS案の名称	JIS案の英文名称	改正する理由(必要性)	期待効果	規定項目又は改正点	制定・改正に伴う廃止JIS	対応する国際規格番号及び名称	対応する国際規格との対応の程度	選定基準1 (JIS法第2条の産業標準化の対象)	選定基準2 (JIS法第1条の法律の目的)	選定基準3 (産業標準化の利点・欠点)	選定基準4 (国が主体的に取り組む分野の判断基準)	選定基準5 (市場適合性に関する判断基準)	JIS素案作成委員会(WG)	作成開始予定
JSA	11 産業 機械	改正	A8201	シールド掘進機の仕様書様式	Standard form of specifications of shield machine	この規格は、シールド掘進機の仕様書の様式及び記入要領について規定したもので、1986年に制定され、1993年に改正された。前回の改正から30年以上が経過し、仕様書に記載する用語及び数値の単位が規格の使用者によって異なる場合があり、混乱を生じている。そこで、市場の実態に合わせて用語を見直し、数値の単位を変更するため、この規格を改正する必要がある。	この改正によって、仕様書に記載する用語及び数値の単位が市場の実態と整合することとなり、仕様書の品質が改善し、取引が単純公正化され、製造業者と製品使用者との間の相互理解を促進することが期待される。	主な改正点は、次のとおり。 (1)仕様書記入要領において、使用する用語を次のように変更する。 ・形式名称における用語“泥水加圧式”を“泥水式”に、“泥土圧式”を“泥土圧シールド”に変更する。 ・機械総質量の記入要領における用語“真円保持装置”を“形状保持装置”に変更する。 ・エレクトラ装置の記入要領における用語“サポートジャッキ”を“振れ止めジャッキ”に変更する。 (2)シールド掘進機仕様書様式において、単位を次のように変更する。 ・N(ニュートン)をkN(キロニュートン)に変更する。(N→kN、N・m→kN・m、N/m ² →kN/m ²) ・Pa(パスカル)をMPa(メガパスカル)に変更する。	—		無	第2条の該当号: 2(設計方法) 対象事項: シールド掘進機の仕様書	法律の目的に適合している。	利点: ア、イ、ウ 欠点: いずれも該当しない。			一般社団法人日本建設機械施工協会のWG	2026年7月
JSA	11 産業 機械	改正	A8502	振動パイルハンマの仕様書様式	Standard form of specifications of vibratory pile hammers	この規格は、電動機又は油圧で駆動する振動パイルハンマの仕様書の様式及び記入要領について規定したもので、1966年に制定され、1977年、1993年及び1994年に改正された。前回の改正から30年以上が経過し、振動パイルハンマ仕様書様式の一部の数値の単位が市場の実態と整合しなくなっており、混乱を生じている。そこで、市場の実態に合わせて適切な単位に変更するため、この規格を改正する必要がある。	この改正によって、振動パイルハンマ仕様書様式の単位が市場の実態に即したものとなり、仕様書の品質が改善し、取引が単純公正化され、製造業者と製品使用者との間の相互理解を促進することが期待される。	主な改正点は、次のとおり。 振動パイルハンマ仕様書様式において、単位を次のように変更する。 ・性能の偏心モーメント:kg・cm(キログラムセンチメートル)をN・m(ニュートンメートル)に変更する。 ・緩衝装置の最大たわみ量:cm(センチメートル)をmm(ミリメートル)に変更する。 ・緩衝装置のばね常数:kN/cm(キロニュートン毎センチメートル)をN/mm(ニュートン毎ミリメートル)に変更する。 ・油圧モータ又は油圧シリンダの最大油圧:kPa(キロパスカル)をMPa(メガパスカル)に変更する。 ・パイルチャックの操作圧力:Pa(パスカル)をMPa(メガパスカル)に変更する。 ・油圧ユニットの最大油圧:kPa(キロパスカル)をMPa(メガパスカル)に変更する。	—		無	第2条の該当号: 2(設計方法) 対象事項: 振動パイルハンマの仕様書	法律の目的に適合している。	利点: ア、イ、ウ 欠点: いずれも該当しない。			一般社団法人日本建設機械施工協会のWG	2026年7月